

## 報 告 書

2015年 2 月 12 日

望月 厚司 様

議員名 佐藤 成子

下記のとおり、政務活動費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2015年2月4日（水）	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	政策のチカラが選挙を変える ～マニフェストスイッチプロジェクト～
	(2) 対 応 者	早稲田大学マニフェスト研究所 LM推進首長連盟 LM推進地方議員連盟 LM推進ネットワーク（公益財団法人）明るい選挙推進協会
3 目 的	統一地方選挙に向けて、マニフェスト選挙の推進をどのように進めるかの情報収集と実践首長の話聞く、先進事例を聞くことができるのではないかとの思いで参加する。更に、マニフェストの本当の意味の確認を目的として参加する。	
4 内 容	<p>(調査事項・調査結果を具体的に)</p> <p>※政策型×次世代首長の提案「政策のチカラで選挙に勝つ」 熊谷俊人（千葉市長）福田紀彦（川崎市長）大西一史（熊本市長）</p> <p>それぞれに、具体的に掲げたマニフェストで当選して、その進捗状況を交えながら、3市長の話し合いが行われた。熊本の目玉は他市には通じないとか、千葉の若い市長のアイデアは、川崎ではどうもあてはめられないとか、それぞれの市長の特徴を面白く語っていた。又、今村岳司（西宮市長）は、市内全戸へマニフェストを手配りしたとこと。理解してもらおう一番いい方法！との選択だ。いずれにしても首長のマニフェストは当選してからの市政運営の要となり、それらを指針として施策が推進されていく。その際PDCAサイクルを回し検証できるのがマニフェストだ。先の衆議院選挙の投票率は戦後最低を記録している。選挙をもっと面白くして、たくさんの人がきちんと政策で選んで投票できるようにするには何が必要なのか・どうすればいいのか語られた。インターネット選挙解禁後初の2015年の統一地方選挙。地域から日本を変えるために「マニフェストスイッチプロジェクト」をスタートさせると説明がなされた。</p> <p>2015年の統一地方選挙に向け、全国の候補者に、マニフェストの</p>	

	<p>統一フォーマットの使用などを提案するプロジェクトだ。2003年北川正恭元三重県知事が提唱し全国に広まったマニフェスト型選挙だが、近ごろ候補者が掲げるマニフェストと有権者が重視する課題などのずれが指摘されたり、政治離れや低投票率などの課題もある。又、各自治体は借金が多く、どんな政策を優先させるか大きな課題になっている。よって、有権者は、どんな政策を選択するか、政策でどの候補を選ぶか迫られている。そこで、このプロジェクトは、マニフェストの検証や比較を可能にするため統一のフォーマットを作成。候補者から寄せられてマニフェストをネット上でオープンデータとして公開し、有権者に情報提供し自由に活用できるシステムを提供している。</p>
<p>5 成果・市政への反映等</p>	<p>今回の統一地方選挙でどれだけの候補者が、このシステムを活用するか興味のあるところだ。我が市長もマニフェストをつくると明言している。主に第3次総合計画の中身を謳っていると思うが、これからの4年間、PDCAサイクルをしっかりと回して、市民ニーズの把握、その思いに沿った政策実現を進めてほしい。現市長は、まだその意（再選出馬）を表明してはいないが、政策実現の前に、大きなハードル、選挙・当選を果たさなければならない。我々議員の提言（市民の代弁）もしっかりと盛り込まれ、我々議員も議会で議決した3次総案なので、その実現のための必要条件は見えているのではないかと考えている。はじめの、4人の現職市長、それぞれがマニフェストをもって立候補し当選。自信をもってマニフェストを推進し市政を動かしている。有権者は何を頼りにすべきか、選ぶならやはりしっかりとした政策（マニフェスト）を打ち出している候補者にすべきと思うのだが。。</p>

(注)

- 1 この別紙は、視察先ごとに作成すること。
- 2 連名により作成することも可能。
- 3 この様式により難しい場合は、別の様式によることができる。